

第3章 目標とする環境像

1 目標とする環境像

目標とする環境像は、今後の本市が目指すまちの姿として示すもので、見直し後においても引き続き「豊かな自然に育まれた人と歴史 あたたかな心かようまち 香取」を継続します。

本市は、水と緑の恵み豊かな自然環境に生まれ、舟運により発展した歴史と伝統文化が息づく古い町並み、河川、水路などの水郷地帯や田園風景が、今も残されている地域です。

豊かな自然環境と長い歴史の中で育まれてきた本市固有の伝統や文化について、先人の教えを学びそれを守っていくと同時に、将来にわたって健康で豊かな生活を続けることのできる、あたたかな心かようまちづくりを目指します。

豊かな自然に育まれた人と歴史 あたたかな心かようまち 香取



田園風景



重要伝統的建造物群保存地区



利根川

2 基本目標

本市が目標とする環境像「豊かな自然に育まれた人と歴史 あたたかな心かようまち 香取」の実現に向けて、本計画の目標年度である2028年度における本市のイメージを5つの分野ごとに描きました。

これらの将来イメージを「目標とする環境像」を実現するための基本目標として位置づけ、市民、事業者、市の協働のもとで、将来イメージの実現に向けた取組を進めます。

なお、目標とする環境像や基本目標を実現するために実施する環境施策は、同時に本市の福祉の向上や経済活性化、快適なまちづくりといった環境以外の分野にも好影響を与え、ひいては誰一人取り残さない、持続可能でよりよい社会の実現を目指す SDGs の開発目標に貢献するものです。

そこで、環境施策の実施が本市の社会・経済などの複数の異なる課題の解決と相互に関連していることを示すため、それぞれの基本目標に関連する SDGs を標記しました。

標記した SDGs は、本計画の推進によって達成されるゴールであると同時に、第2次香取市総合計画をはじめとする本市の各種計画の推進によって達成されるゴールでもあることを認識しながら、施策の展開を図っていくものとしします。

基本目標

I

循環型社会の実現

～ごみを出さないライフスタイルを実践するまち～

できる限りごみを出さず、ものを捨てずに大切に使う生活や事業活動が定着し、分別排出も徹底され、焼却処理されたり、最終処分されるごみの量が減り、市民が排出するごみの量が少ないまちになっています。

【関連する SDGs】



基本目標

Ⅱ

健全な生活環境の実現

～快適で暮らしやすい地域を未来に伝えるまち～

大気や騒音などに対する調査・監視・指導の継続により、環境基準を達成し、公害への苦情が減っています。また、事業所・工場などの排水対策、家庭の生活排水対策が進み、河川の水質が改善されています。

雨水の貯留やかん養能力を持つ農地、森林が保全され、河川流量の維持や地下水の保全が図られるなど、人類共通の財産である水が健全に循環するまちになっています。

歴史的な町並み景観や四季が感じられる豊かな自然景観が維持され、心が落ち着くまちになっています。

【関連する SDGs】



基本目標

Ⅲ

自然共生社会の実現

～生物多様性の恵みを未来に伝えるまち～

自然が多く残されており、里山や水辺などの自然空間が市民、事業者との協働で手入れされ、多様な動物や植物が確認でき、自然観察会やホテル観賞会の開催が活発になっています。

また、自然とふれあえる機会や場も広がり、暮らしの中で自然の豊かさを実感できるまちになっています。

【関連する SDGs】



基本目標 IV

脱炭素社会の実現 ～デコ活を実践するまち～

家庭や事業所において、デコ活^{※1}が定着しており、あらゆる生活場面で無駄を排除し、無理なく続けられる脱炭素に貢献する行動の実践が当たり前となっています。

家庭や地域での再生可能エネルギー設備などの導入、利用が拡大しているほか、事業者との連携による再生可能エネルギーの調達が進んでいます。

無駄なエネルギーを消費しない構造の住宅や工場、事業所が増え、電気自動車やプラグインハイブリッド車などの次世代自動車が普及するなど、2050年カーボンニュートラルに向けた基盤が整いつつあります。

さらに、気候変動リスクに適応する取組も進められており、短時間の集中豪雨などによる浸水被害や土砂災害、熱中症にかかる危険が少ないまちになっています。

【関連する SDGs】



※1 環境省が提唱する脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動のこと

基本目標 V

環境保全活動の拡大 ～協働による環境保全活動を実践するまち～

自然と歴史・文化にあふれた香取を愛し、家庭や学校、職場など様々な場面で、環境問題について正しい知識を学び、その解決に向けて自主的かつ積極的に行動できる市民、事業者になっています。

古来より連綿と続く生活の場、働く場としての香取を、より豊かにして未来の子どもたちへ引き継ぐため、市民、事業者、市が協働してさまざまな環境保全活動に取り組む、環境にやさしいまちになっています。

【関連する SDGs】



コラム：デコ活

「デコ活」とは、2050年カーボンニュートラル及び2030年度CO₂削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするための新しい国民運動です。「デコ活」の「デコ」は、英語の脱炭素「デカーボナイゼーション」と「エコ」を組み合わせた造語で、二酸化炭素（CO₂）を減らす環境に良い活動という意味が込められています。

「デコ活」では、脱炭素につながる働き方や暮らし方をすることによって将来生み出される費用や時間を具体的に示すなど、脱炭素につながる新たな豊かな暮らしの全体像を知り、触れ、体験・体感してもらう様々な機会・場をアナログ・デジタル問わず提供しています。

その中で、わたしたちが最初に取り組むべき行動（アクション）を、「まずはここから」と題して「デ」「コ」「カ」「ツ」にちなんだ4つの取組を挙げています。

さらに、再生可能エネルギー、高効率設備機器、次世代自動車などの導入・利活用などの取組を「ひとりでのCO₂が下がる」アクションとして、クールビズ・ウォームビズやサステナブルファッション、ごみの分別、地産地消などの取組を「みんなで実践」アクションとして挙げています。

取組メニューとともに取組の効果や補助金情報などのサポート情報が示されていますので、「まずはここから」の取組の実践を広げていきましょう。

デコ活アクション一覧

分類		アクション
まずはここから	住	デ 電気も省エネ 断熱住宅 (電気代をおさえる断熱省エネ住宅に住む)
	住	コ こだわる楽しさ エコグッズ (LED・省エネ家電などを選ぶ)
	食	カ 感謝の心 食べ残しゼロ (食品の食べきり、食材の使い切り)
	職	ツ つながるオフィス テレワーク (どこでもつながれば、そこが仕事場に)
ひとりでのCO ₂ が下がる	住	高効率の給湯器、節水できる機器を選ぶ
	移	環境にやさしい次世代自動車を選ぶ
	住	太陽光発電など、再生可能エネルギーを取り入れる
みんなで実践	衣	クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションに取り組む
	住	ごみはできるだけ減らし、資源としてきちんと分別・再利用する
	食	地元産の旬の食材を積極的に選ぶ
	移	できるだけ公共交通・自転車・徒歩で移動する
	買	はかり売りを利用するなど、好きなものを必要な分だけ買う
	住	宅急便は一度で受け取る

日々のデコ活の取組は、「#デコ活」を付けて SNS など発信したり、デコ活のウェブサイト (<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/join.html>) から、「デコ活宣言」をして、デコ活の賛同・参加ができますので、一人ひとりの日常の取組が地球を変える大きなうねりになるように運動の和をひろげていきましょう。

出典：環境省ウェブサイト (<https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/>)

こちらから確認できます⇒

